



平成21年度予算がスタート

一般会計
特別会計

予算総額 221億1224万円

会計別予算額

一般会計とは、市の行政運営の基本的な経費を計上している会計で、市税や国・県からの補てん金などが主な財源です。これに対して特別会計は、特定の事業を行うための会計で、主として保険料や使用料などの収入で賄われています。また、公営企業会計は、事業によって得る収入で支出を賄う採算型の会計です。

《一般会計・特別会計》

会計名	予算額	前年度比
一般会計	138億6,230万円	0.7%
特別会計	国民健康保険	43億1,805万8千円 0.9%
	老人保健	703万8千円 △97.3%
	後期高齢者医療	2億7,295万7千円 △1.5%
	介護保険	20億6,289万9千円 △0.5%
	公共下水道	12億2,700万4千円 △14.0%
	農業集落排水	3億593万9千円 27.1%
	市営分譲住宅	5,604万8千円 2.5%
合計	221億1,224万3千円 △1.2%	

《企業会計》

水道事業会計	区分		決算額	
	収益的収支	収入	10億6,482万円	収入
支出		10億5,084万8千円	支出	
資本的収支	収入	3億6,332万7千円	収入	3億6,332万7千円
	支出	4億6,893万7千円		支出

平成21年度予算がスタートしました。本年度の一般会計予算は138億6230万円、対前年度比0.7%増の予算です。

本年度の市の財政は、国内経済の低迷により、法人市民税は前年度と比較して約1億9000万円減で約25%の減、市税全体でみた場合でも約3億2600万円、率にすると約5.3%の減となる見込みです。また、地方譲与税や自動車取得税交付金などについても1億700万円、率にすると約12%の減となる見込みです。さらに高齢化の進行などによる社会保障関係費の増加など、義務的経費が増大し、財政の硬直化が一層進行しているほか、財政調整基金等も減少するなど、財政状況は厳しさを増しています。

こうした状況下、今こそ市民生活の安定を図り、将来にわたる持続的な発展を可能にするため集中改革プランに基づき、より効率的・効果的な行政運営に努めることが重要であることから、予算編成の基本理念を「環境共生型まちづくり」、「安心して暮らせるまちづくり」、「地域の魅力をいかしたまちづくり」として重点化を図り、「都市基盤の整備」、「生活環境の整備」、「保健・医療・福祉の充実」、「教育・文化・スポーツの振興」、「産業の振興」、「コミュニティの醸成」、そして「適正な行政運営」の7つの柱に、限られた財源を効率的に配分しました。